

## 寺社を巡る会

# 活動記録書

開催日： 平成 27 年 6 月 4 日 (木)	開催テーマ： 三浦三十三観音巡り												
開催場所： 三崎	記入者： 飯富 禧子												
参加人数： <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">寺社を巡る会会員</td> <td style="text-align: center;">男 25 名</td> <td style="text-align: center;">女 7 名</td> <td style="text-align: center;">計 32 名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ビジター</td> <td style="text-align: center;">男 名</td> <td style="text-align: center;">女 名</td> <td style="text-align: center;">計 0 名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: center;">32 名</td> </tr> </table>		寺社を巡る会会員	男 25 名	女 7 名	計 32 名	ビジター	男 名	女 名	計 0 名	合 計			32 名
寺社を巡る会会員	男 25 名	女 7 名	計 32 名										
ビジター	男 名	女 名	計 0 名										
合 計			32 名										
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>コース：京急三崎口駅（バス）～ 城ヶ島大橋バス停 ～大椿寺（四番）～ 本瑞寺 ～ 光念寺 ～ 海南神社 ～ うらり（昼食）～ 最福寺 ～ 音岸寺（一番）～ 見桃寺（二番）～ 三崎港バス停（バス）～ 京急三崎口駅（解散）</p> <p>三崎口駅前資料配布。初めての美しいカラー印刷に皆驚き喜んだ。特に案内地図が鮮明で、探訪の道程が良く分かった。吉田代表、よこすかシティガイド協会の挨拶後、バスに乗車。城ヶ島大橋バス停で下車、橋の中央近くまで歩き、橋の構造、建造の歴史、又、三崎の町を見下ろしながら関東大震災によって 1.2m の隆起があったこと、冬の西風で大火事が頻発したこと等の説明を受けた。最初の探訪寺社は『椿の御所』と称される四番札所大椿寺。三崎には源頼朝が椿・桜・桃を植樹して別荘を営んだことにより花の名前を冠した御所が三ヶ寺ある。大椿寺はその名の如く椿が植樹され、頼朝の側室が住まっていた。本尊は秘仏の十一面観音坐像。本堂入口でお前立の観音立像を拝観した。次の探訪寺社は『桜の御所』と称される本瑞寺。開基は三浦荒次郎義意。頼朝が桜を植えさせた時代と開山の時期(1509 年)は異なるが、今や面影も無い桜が三浦一族への回向の様にも思われた。次の探訪は浄土宗光念寺。優しい面立ちの本尊阿弥陀如来像を遠く拝した。次は三浦半島の総鎮守で、三浦一族の鎮守社でもある海南神社を訪れた。広くもない境内地には多くの境内社が建立されていた。頼朝お手植えと言われる大銀杏は今まで見たことも無いほどの巨木で、将に度胆を抜かれるばかりだった。昼食後最初に訪れた寺社は親鸞上人の教化により天台宗から浄土真宗に改宗した最福寺。天文元年(1532)戦乱の鎌倉から三崎西の浜に移転、更に元禄 10 年(1697)に御船手奉行向井家の屋敷跡の現在地に移転した。次は一番札所音岸寺。無人の一番札所に寂しい思いが湧いたのは私だけでは無かったようで、「一番札所なのに。」という声が多く聞かれた。最後は『桃の御所』と称される見桃寺。この寺も無住寺。開基は徳川家御船手奉行向井正綱。境内墓地には向井将監一族の立派な供養塔が建っていた。この後バスで三崎口に戻り解散。</p> <p>お天気に恵まれ、三浦の心地良い風を感じながらの楽しい探訪であった。</p>													
<p>参加者の状況・意見など：</p> <p>昼食場所の“うらり”での滞在時間が 30 分という班があり、時間配分が厳しかったという指摘があった。途中経過で何らかの事情があったと思われるが今後は一考願いたい。</p>													
<p>次回の予定：</p> <p>7 月 2 日 (木) 10 : 00 金田バス停集合 三浦南部方面</p>													